

関係各位

2025年7月23日

株式会社パテント・リザルト

【機械】他社牽制力ランキング 2024

トップ3は三菱重工、ダイキン、豊田自動織機

弊社はこのほど「機械業界」の特許を対象に、2024年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別に集計した「機械業界 他社牽制力ランキング 2024」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な企業が明らかになります。

集計の結果、2024年に最も引用された企業は、1位 **三菱重工業**、2位 **ダイキン工業**、3位 **豊田自動織機**となりました。

【機械業界 他社牽制力ランキング 2024 上位10社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	三菱重工業	1,205
2位	ダイキン工業	1,030
3位	豊田自動織機	767
4位	クボタ	649
5位	日本精工	542
6位	IHI	541
7位	ヤンマーパワー・テクノロジー	507
8位	日立建機	506
9位	NTN	457
10位	コマツ	425

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2024年12月までに公開された全特許のうち、2024年1月～12月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計を行っています。

また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2025年5月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1位 **三菱重工業**の最も引用された特許は「電気自動車ユーザにインセンティブを与えて利用を促進するサービス管理システム」に関する技術で、日本総合研究所など計5件の審査過程で引用されています。このほかには「災害現場の状況を迅速かつ広く把握する災害活動支援システム」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、トヨタ自動車など計4件の拒絶理由として引用されています。

2024年に、三菱重工業の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は東芝（41件）、次いでパナソニック（29件）となっています。

2位 **ダイキン工業**の最も引用された特許は「在室者の空間利用目的に応じて空調環境を制御する空調制御システム」に関する技術で、三菱電機やパナソニックなど計6件の審査過程で引用されています。このほか「空調装置の利用状況を検知してプログラムをバージョンアップできる空調制御システム」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、川本製作所など計3件の拒絶理由として引用されています。

2024年に、ダイキン工業の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は三菱電機（126件）、次いでパナソニック（84件）です。

3位 **豊田自動織機**の最も引用された特許は「部品の種類を低減し生産性を向上したモータ用ロータ」に関する技術で、アイシンなどの計5件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2024年に、豊田自動織機の特許により影響を受けた件数が最も多い企業はトヨタ自動車（61件）、次いでLG ENERGY SOLUTION（54件）となっています。

4位 **クボタ**は「収穫状況と位置に応じて最適な排出経路や復帰経路を生成する自動走行制御システム」、5位 **日本精工**は「軌道面の転がり疲労特性が高く、全体として寸法変化が小さい転がり軸受」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【機械業界 他社牽制力ランキング 2024 データ】

▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※

（※データー式を収録した CD-R での御納品をご希望の場合はご相談ください）

- ・ランキング トップ 50 社：本業界の被引用件数上位 50 社のランキング
- ・被引用件数 トップ 100 件：本業界の被引用件数上位 100 特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000 円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL : <https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail : info@patentresult.co.jp